

<記入にあたっての留意事項>

・各研究指定校の教育の特色や教育課程の編成やその実施の状況（指導計画や指導の特色等）がわかるように、記入する。その際、具体的な教育課程表参照ではなく、内容について簡潔にまとめる。

②幼稚園教育要領の定めるねらいの実現状況（D-2票）

・読みとり表に基づき、改訂された教育内容を中心に、実現状況及び課題を具体的に書く。

幼稚園名

園長名

幼稚園教育要領に示された教育内容	実現状況及び課題
領域「健康」 （例） ・明るくのびのびと行動すること ・十分に体を動かし、進んで運動しようとする事 ・安全についての構え ・基本的な生活習慣の自立 領域「人間関係」 （例） ・身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ 領域「環境」 領域「言葉」 領域「表現」	対象幼児と学級全体をまとめてかく 読みとり表の「調査指導員から」と重なりがある 課題は具体的に書くこと

③調査指導員：幼稚園教育要領の定めるねらいの実現状況（E票）

・読みとり表に基づき、改訂された教育内容を中心に、実現状況及び課題を具体的に書く。

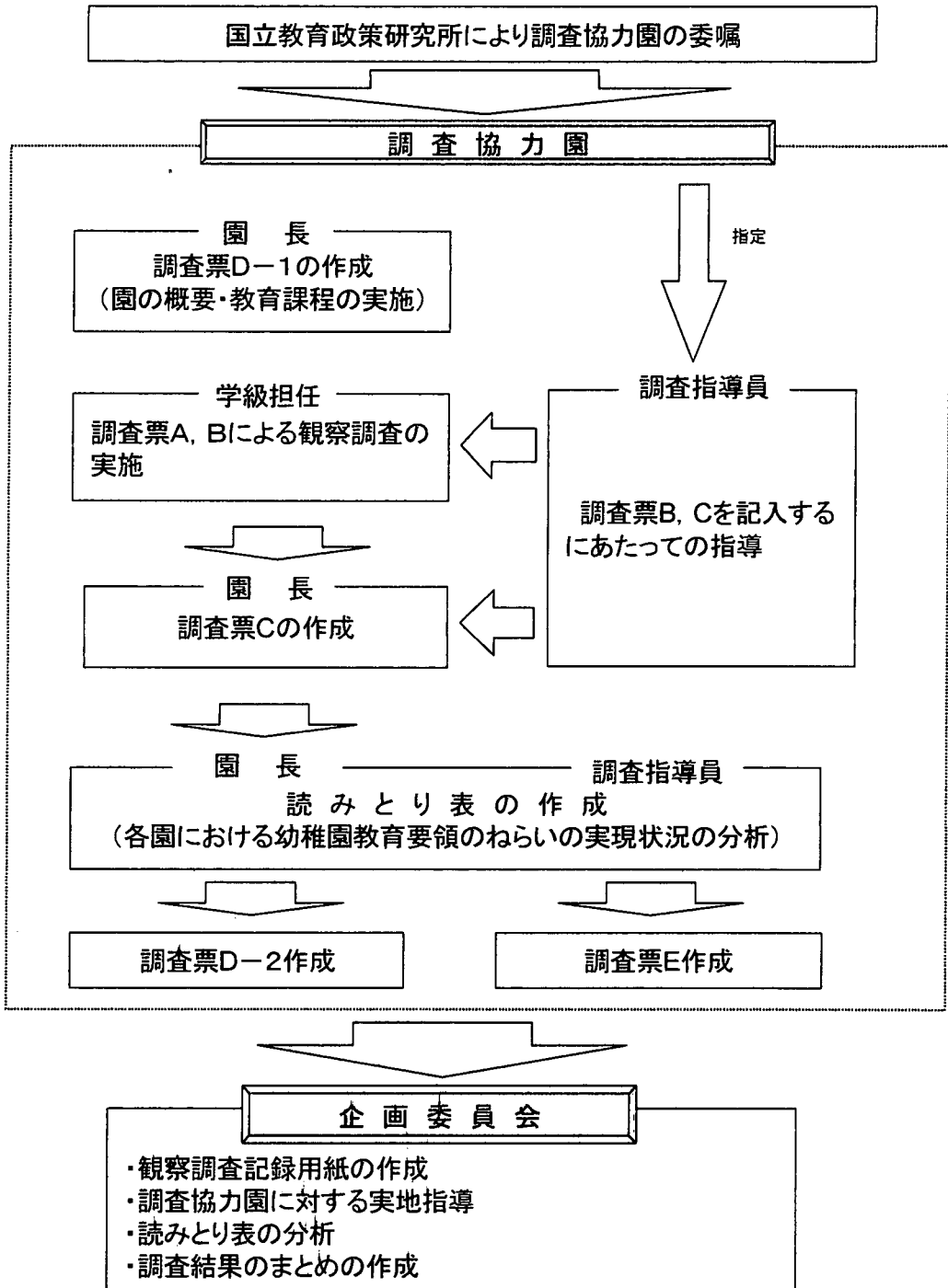
幼稚園名

調査指導員名

幼稚園教育要領に示された教育内容	実現状況及び課題
領域「健康」 （例） ・明るくのびのびと行動すること ・十分に体を動かし、進んで運動しようとする事 ・安全についての構え ・基本的な生活習慣の自立 領域「人間関係」 （例） ・身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ ・領域「環境」 ・領域「言葉」 ・領域「表現」	対象幼児と学級全体をまとめてかく 読みとり表の「調査指導員から」と重なりがある 課題は具体的に書くこと

幼稚園教育要領に定めるねらいの実現状況の調査研究の全体図

調査分析の流れ



[調査票A]

日々の記録

(学級全体・観察対象児)

学級名

年保育

歳児

幼児名(記号)

観察年月日

年

月

日

都道府県名

幼稚園名

調査担当者名

エピソード

[調査票B]

1 週間のまとめ

(学級全体・観察対象児)

都道府県名

学級名

幼稚園名

年保育

歳児

幼児名(記号)

観察年月日

年

月

日

調査担当者名

生活場面		幼児の発達の状況
遊びに 取り 組 む 中 で	A. 幼児が一人 で行動する 場面で	
	B. 友達と行動 する場面で	
	C. 先生とかか わる場面で	
D. 学級全体で 行動する場面で		
E. 生活行動を する場面で		

(調査票B記入上の注意事項)

- この調査票Bは、調査担当者(担任)が観察期間中の幼児の生活する姿から読み取った幼児の発達の状況を、生活の場面ごとに記入していただくためのものです。
- 幼児の発達の状況には、次のような側面があることを念頭におきながら、記入してください。
 - ① 幼児の興味・関心の示し方、感動、喜び、怒り、悲しみなどの感情など、心の動きに関するもの
 - ② 幼児の身体面、運動機能面の発達や運動に対する意欲など、体の動きに関するもの
 - ③ 自然環境、素材、遊具などに対する興味のもち方や取り組み方など、周囲の事物への働きかけ方に関するもの
 - ④ 友達や先生など周囲の人々とのかかわり方に関するもの(友達をどのように感じているか、かかわろうとしているかなど、心情や意欲の面も含む。)
 - ⑤ 幼児が、考えたこと、感じたことなどをどのように表現しているかなど
 - ⑥ 健康や安全、生活上のきまりなどについての意識や態度、更には生活を自分で営んでいこうとする意欲や態度など、生活に必要な行動に関するもの
- 幼児の発達の状況を記入する際に、不安や葛藤なども見落とさないようにしてください。

[調査票C]

総括票

(学級全体・観察対象児)

(年保育 歳児学級)

学級名 組 幼児名 (記号)

観察期間 平成 年 月 日～ 月 日 調査担当

都道府県名
幼稚園名
調査指導員

遊びに 取り 組 む 中 で	幼児の発達の側面 生活の場面							
	A. 幼児が一人で 行動する場面で	a. 心の動き	b. からだの動き	c. 周囲の事物へ の働きかけ方	d. 周囲の人々と のかかわり方	e. 考えたこと, 感 じたことの表現の 仕方	f. 健康や安全, 生 活上の理解や態度	g. その他
B. 友達と行動 する場面で								
C. 先生とかかわる 場面で								
D. 学級全体で 行動する場面で								
E. 生活行動をする 場面で								

調査票 C 記入上の注意事項

1 「生活場面」の欄について

調査票 C の縦軸にある「生活場面 A～E」は、幼児の生活する姿が、幼稚園生活のどのような場面で見られたかを分類するためのものである。それぞれの幼児の発達が見られた場面が、A～E のどれであったかを考えて分類する。

①「遊びに取り組む中で」の欄には、幼児が周囲の様々な環境とかかわりながら思い思いの遊びに取り組む生活場面（D 及び E にあてはまらないもの）において読みとった幼児の発達の状況を記入する。

②「A. 幼児が一人で行動する場面で」の欄には、主として幼児が一人で活動する場面において読みとった幼児の発達の状況を記入する。

③「B. 友達と行動する場面で」の欄には、主として幼児が友達と活動する場面において読みとった幼児の発達の状況を記入する。

④「C. 先生とかかわる場面で」の欄には、主として幼児が教師とかかわったり、教師の指導で活動する場面において読みとった幼児の発達の状況を記入する。

⑤「D. 学級全体で行動する場面で」の欄には、おおよそ幼児が、学級全体で次のような活動をする場面において読みとった幼児の発達の状況を記入する。

- 例) ・教師の周りに集まって、絵本、紙芝居、お話などを見たり聞いたりする。
・生活に必要なことや身近な出来事などを伝えあう。
・教師や友達と、歌ったり身体を動かしたり、集団遊びをするなどして楽しむ。
・共通の課題をもって活動する。幼児が思い思いの活動をするうち、自然に学級全体で活動するようになった場合も、D に記入する。

⑥「E. 生活行動をする場所で」の欄には、おおよそ次のような生活場面において読みとった幼児の発達の状況を記入する。

- 例) ・所持品や衣服の始末、 ・手洗い、便所の使用、 ・片付け、
・食事、 ・当番活動、 ・健康診断や避難訓練

2 「幼児の発達の側面」の欄について

調査票 C の横軸にある「幼児の発達の側面 a～f」は、観察担当者が幼児の生活する姿から読みとり、調査票 B などに記入した幼児の発達の状況を様々な側面からとらえようとするものである。幼児の生活する姿の中には、多くの場合 a～f のいくつかの側面が重なって表れている。表れている側面のすべてについて記入する。どうしても a～f の分類に当てはまらないと思われる場合には、「g. その他」の欄に記入する。

①「a. 心の動き」の欄には、主として幼児が何かに心を動かして示す感動や興味・関心などの心の動きについて、どのような場面でのどのように心を動かすのかを記入する。悲しみ、怒り、葛藤、混乱などの心の動きも記入する。

②「b. からだの動き」の欄には、主として幼児の身体的な側面や運動機能について記入する。技能的な面だけでなく、心情や意欲なども記入する。

③「c. 周囲の事物への働きかけ方」の欄には、主として幼児の人以外の環境に対する興味の示し方や取り組み方などを記入する。例えば、自然環境や素材などの環境へのかかわり方を記入する。

④「d. 周囲の人々とのかかわり方」の欄には、主として幼児の友達や先生とのかかわり方などを記入する。例えば、友達のことをどのように受け止めているかといった心情や友達とのコミュニケーションの仕方などを記入する。

⑤「e. 考えたこと、感じたこととの表現の仕方」の欄には、主として幼児が、考えたこと、感じたことなどをどのように表現しているかについて記入する。

⑥「f. 健康や安全、生活上のきまりに対する理解や態度」の欄には、主として健康や安全、生活上のきまりについての意図や態度、さらに自分の生活を自分で営んでいこうとする意欲や態度などを記入する。

⑦「g. その他」の欄には、a～f では当てはまらないものがあれば記入する。

D-1票：教育課程の編成や実施の状況（園長用）

幼稚園名

園長名

	項 目	内 容
教育課程の編成の状況	<p>幼稚園の実態や教育方針と教育課程の特色 （以下の項目は必ず入れること）</p> <p>①地域や園の実態 ②園の教育方針・教育目標・指導の重点等 ③教育課程編成の基本的な考え方 ④学級編制，教育期間 ⑤その他</p> <p>幼稚園教育要領と教育課程との関連 （以下の項目は必ず入れること）</p> <p>①計画的な環境の構成や教師の役割の基本を示したこと ②自我が芽生え，他者の存在を意識し，自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性を踏まえた教育課程の編成を示したこと ③幼児期にふさわしい道徳性について示したこと ④幼児期にふさわしい知的発達を促す教育の在り方を示したこと ⑤その他の改訂内容との関連</p>	
教育課程の実施の状況	<p>年間指導計画の特色</p> <p>①年間指導計画作成に当たっての基本的な考え方 ②各年齢ごとの指導の重点 ③その他</p> <p>教育環境の特色</p> <p>①施設・園庭の特色 ②遊具や教具 ③指導体制・園内研修 ④外部人材の活用 ⑤その他</p>	

D-2票：幼稚園教育要領の定めるねらいの実現状況（園長用）

幼稚園名

園長名

幼稚園教育要領に示された教育内容	実現状況及び課題
領域「健康」	
領域「人間関係」	
領域「環境」	
領域「言葉」	
領域「表現」	

E票：幼稚園教育要領の定めるねらいの実現状況及び課題（調査指導員用）

幼稚園名
調査指導員名

幼稚園教育要領に示された教育内容	実現状況及び課題
領域「健康」	
領域「人間関係」	
領域「環境」	
領域「言葉」	
領域「表現」	

【読みとり表 1-1】

領域「健康」 (学級全体・対象児) 学級名 幼児名 (記号)

幼稚園名

	<p>明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</p>	<p>自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p>	<p>健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p>
<p>遊びに取り組む中で</p>			
<p>学級全体で行動する場面で</p>			
<p>生活行動をする場面で</p>			
<p>調査指導員から</p>			

【読みとり表 1-2】
領域「人間関係」

(学級全体・対象児)
学級名

幼児名 (記号)

幼稚園名

	幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもち。	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
遊びに取り組み 中で			
学級全体で行動 する場面で			
生活行動をする 場面で			
調査指導員から			

【読みとり表
領域「環境」

1-3】

(学級全体・対象児)

学級名

幼児名(記号)

幼稚園名

	<p>身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</p>	<p>身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p>	<p>身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>
<p>遊びに取り組み 中で</p>			
<p>学級全体で行動 する場面で</p>			
<p>生活行動をする 場面で</p>			
<p>調査指導員から</p>			

【読みとり表 1-4】
領域「言葉」

(学級全体・対象児)
学級名

幼児名 (記号)

幼稚園名

	<p>自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。</p>	<p>人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。</p>	<p>日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友だちと心を通わせる。</p>
<p>遊びに取り組み 中で</p>			
<p>学級全体で行動 する場面で</p>			
<p>生活行動をする 場面で</p>			
<p>調査指導員から</p>			

【読みとり表
領域「表現」】

1-5】

(学級全体・対象児)

学級名

幼児名(記号)

幼稚園名

	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を持つ。	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。
遊びに取り組む中で			
学級全体で行動する場面で			
生活行動をする場面で			
調査指導員から			

調査指導員の方へのお願い

この調査は、研究指定校における観察調査から、教育課程の実施の状況を把握し、幼稚園教育要領に定めるねらいの実現状況を把握するものです。

調査指導員の方には、研究指定校において調査を進める際に、調査研究の方法を確認し、幼児の見方や発達の捉え方についてのご助言をいただきたいと思います。

具体的には、次のような観点から、ご指導、ご協力をお願いいたします。

○はじめの段階

- ・調査の目的や調査研究の進め方、観察調査の進め方について、担任、園長と一緒に確認し、1年間のスケジュールを作成する。

○A票、B票の作成の作成に当たって

- ・調査期間中に研究指定校を訪問し、ねらいの実現状況をみるために対象学級・対象幼児を観察する。（6月・2月の2回）
- ・観察記録（A票）の書き方や観察の仕方について指導助言する。
- ・観察期間中の訪問の際の観察対象児、観察対象学級についての担任の幼児の見方や発達の捉え方が豊かになるように援助する。

○C票の作成に当たって

- ・C票作成の際、園長と話し合い、具体的な子どもの見方や発達について指導助言しながら、多様な視点からC票の作成ができるよう援助する。また、事前に園長と調査指導員がそれぞれにC票を作成し、不一致の箇所について話し合うなどしてもよい。

○読みとり表の作成に当たって

- ・6月と2月のC票をもとに変容を把握する。さらに幼稚園教育要領に定めるねらいをもとに調査指導員の立場で、幼稚園教育要領のねらいの実現状況を具体的に記入する。

○E票の作成に当たって

- ・調査結果の全体より、調査指導員の立場から、研究指定校における幼稚園教育要領に定めるねらいの実現状況（実施状況ではない）について評価し記入する。

*調査指導員の役割

教育要領の実現状況を把握する調査研究を指導することが役割です。研究方法を確認するとともに、幼児理解を深める、記録をとる、発達の理解をするなどについて指導をしてください。各園の教育課程に基づく通常の保育が行われることが望ましいので、調査指導員は保育そのものを問題にしたり指導したりする役割ではありませんのでご了承ください。

研究成果の刊行に関する一覧表

ブックレット冊子

発表者氏名	書名タイトル	出版社名	ページ	出版年
秋田喜代美・芦田 宏・鈴木正敏・門 田理世・野口隆 子・箕輪潤子・淀 川裕美・小田豊	子どもの経験から振 り返る保育プロセ ス：明日のより良い保 育のために	幼児教育映 像制作委員 会	Pp43	2010

DVD付

子どもの経験から振り返る保育プロセス

明日のより良い保育のために



「保育プロセスの質」研究プロジェクト

もくじ

はじめに	1
子どもの経験から振り返る保育プロセスのイメージ図	3
I 導入編 保育プロセスの質を捉えるために：この理念と方法の特徴	4
1 子どもの「今、ここ」の経験の質から捉える	4
2 「安心・安定」と「夢中・没頭」の2視点から保育プロセスを捉える	4
3 「明日からできることは具体的に何か」を事例から導き出す	5
実践のプロセス概念図	7
II 実践編 具体的な実践方法	8
1 第1段階	8
1) 子どもの視点に立って捉える「安心・安定」と「夢中・没頭」	8
2) Form Aを使って、観察した子どもの姿を記録してみましょう	10
事例1：添付DVD クリップ1：虫捕り	12
3) 子どもの経験について、評定をもとに感じたことを話し合ってみましょう	13
事例2：添付DVD クリップ2：砂遊び	14
事例3：添付DVD クリップ3：ソファの男の子	16
2 第2段階	18
1) Form Bを使って保育の振り返りをしてみましょう	18
2) Form Bを5つの観点に基づいて細かく見てみましょう	19
3 第3段階	21
1) Form Cを使って、園や保育の課題点、改善策、取り組みたいことを見つけていきましょう	21
2) Form D 1を使って、「現状で優れているところ」を確認しましょう	25
3) Form D 2を使って、具体的に保育の改善のために取り組むことを決めていきましょう	25
III 解説 SICSとその方法開発にあたって	27
資料 Form A から Form D への展開	30
おわりに	41
補足情報 本ブックレット添付DVDの評定に関して	42
謝辞・付記	43

DVDは裏表紙に貼り付けてあります。キズがつき易いので、お取り扱いには注意してください。

.....

はじめに

.....

どの子どもにも園で乳幼児期にふさわしい経験をし、豊かな時をすごしてもらいたい、一人ひとりの子どもの暮らしと遊びの権利を保障したい、そのために保育実践を行なうプロセスの質をより良いものにしてゆきたいと、保育者なら誰もが思っておられるでしょう。そして保護者もまたそれを願っていることと思います。そのために、私たちが今すぐにできることは何でしょうか。それは、保育者に現在求められている保育の自己評価とどのようにつながるでしょうか。形式だけの自己評価ではなく、明日の一步につなげるために何ができるでしょうか。

本書のタイトル『子どもの経験から振り返る保育プロセス』は、ベルギー・リューベン大学のフェール・ラーバース (Dr. Ferre Laevers) 教授の保育哲学を、私たちプロジェクトメンバーの言葉で表し、題したものです。この哲学は、子どもの主体的な経験に根ざして、子ども一人ひとりがどのような世界を生活しているのかという、その子どもの心もちになって保育を振り返ることを大切にしています。それはすなわち、一人の子どもの経験にまなざしを向け、共感を持って捉え、その子どもの実存を受け入れ、共にその地平を生きる時間をもつことから、保育プロセスの質を考えていくことです。どのような園の施設や環境であっても、またどのようなハンディを抱えた子どもであっても、全ての子どもが「今、ここ」をより良く生きるために、できる一步の創意工夫から、保育における確かな未来への期待を創りたいという考え方によっています。ラーバース教授は、日々の園内研修に長年関わってこられた実践経験から、この考え (Leven Involvement Scale, 1994) を開発されてこられました。ラーバース教授の思想は、ヨーロッパ、オーストラリアやアフリカなど25カ国を超える様々な国で、保育実践者により学ばれています。また0-6歳だけではなく、小中学校の授業観察においても同じ哲学に基づく子どもの見方が広がっています。

この考え方に、私は2007年11月に開催された OECD Starting Strong Network の保育の質の評価をテーマとした会議で出会いました。そこから、ラーバース教授の思想を学び始め、2009年2月には来日いただき、ワークショップをもち、対話を通して皆で理解を深めました。しかし、このブックレットはその手順だけをマニュアルとしてそのまま翻訳直輸入しようとしたのではなく、その背景にある思想をお伝えしようとしています。生活と遊びの質の保障は、養護と教育の一体的展開として議論されてきました。特に、子どもたちが園の中に自分の居場所を作り、目を輝かせ、遊びこむ姿を創りたいという願いは、私たちの文化がずっと大事にしてきた実践感覚ともつながるものです。そこで、ラーバース教授の哲学をうけ、日本の保育の中で、保育経験の長短を問わず、どの地域のどの園でも誰もがやってみることができることは何だろうかということプロジェクトメンバーで語り合い、このブックレットを作成してみました。

保育は複雑な営みです。保育を振り返る手立てがマニュアル化され、マニュアルの細かな手順が複雑さを増せば増すほどに、実際の実践感覚からは遠ざかり、単純な行為のチェックしかできなくなります。それに対して、エピソード記録や映像等を通して、実践をそのまま記録して捉え、保育哲学に基づいて振り返り、短時間でも子どもの経験とその意味を語り合うならば、専門家としての複雑な判

断を交わし合い見識を深めていくことにつながります。このブックレットは、私たちが考えるこの実践原理に基づいて作成しました。

もちろん、保育の振り返りには様々な窓や道具が必要です。このブックレットがその一つとなり、添付のDVDをきっかけに、自園の保育のごくわずかの時間でも、エピソード記録や映像を通して振り返り、語り合うことから始めてみられたらと願っております。わずかな時に目をとめて、そこから園の様々な子どもたち一人ひとりの可能性をくみ取り、語り合うという営みによって、保育者や保護者の信頼の絆がより確かなものとなっていけば、そして同僚同士で子どもの良さ、各々の保育者の専門的な良さの発見につながればと思っています。

このような形で、文化と伝統の違いに応じて、ベルギー生まれの思想や哲学と日本の保育実践をつなぐことを快く認めてくださり、日本の保育文化を敬愛してくださったラーバース教授やリューベン大学経験教育研究所 (Prof. dr. F. Laevers, Director of the Research Centre for Experiential Education, Leuven University), the Flemish Agency for Child Care, Kind en Gezin (www.cego.be, www.kindengezin.be) の皆様、このブックレットができるまでに親身となって多くの意見をくださった方々、そして本ブックレット等の制作に尽力くださった幼児教育映像制作委員会 田村恵さんにも、心からの感謝を申し上げます。

プロジェクトを代表して 秋田喜代美